



安全な冬期体制の確立を求める！

2022年度冬期の取り組みについて成果と課題を明確にし、今冬期において万全な体制の確立を求め9月4日に2022年度申19号団体交渉を行いました。

1. 2022年度冬期の取り組みにおける成果と課題を明らかにすること。

- ・車両センター構内除雪は構内図色塗りにより効果があった。運行情報周知はフォーマット統一により、より早いお客さまへの情報提供ができた。
- ・乗務員によるポイント不転対応の実績はない。行わない訳ではない。

2. 雪害対策本部の開催は午前中とすること。

- ・朝のウェザーニュースを見て夕方のニュースに間に合わせるように開催している。追加の会議開催はあり得る。

3. ホーム除雪の課題を明らかにすること。

- ・巡回後に積雪する場合もあるが、始発列車に間に合わなかったことはない。

4. 冬期前に実施した倒木・倒竹対策の効果を明らかにすること。

- ・昨冬期は約4000本伐採。効果はある程度ある。今年度も冬期前に終わるようにする。

5. E653系トイレ及び水管凍結による不具合の原因と対策を明らかにすること。

- ・強烈な寒波により、水管内の水が凍結したことが原因と推測している。
- ・水タンクの位置が車両床下真ん中にある。対策はメーカー含めて検討している。

6. E129系の屋根上除雪、制輪子凍結に対する課題を明らかにすること。

- ・制輪子凍結件数は減っている。防風柵については例年規模で検討している。

7. 羽前大山～羽前水沢間、下興屋踏切の消雪設備を復旧させること。

- ・踏切消雪設備の復旧は、優先順位を勘案しながら検討する。暴風柵を設置し、定期巡回をしている。

8. 越後川口駅上り本線の除雪を徹底すること。

- ・引き続き投排雪保守用車もしくはMR等を使用した除雪を実施する。
- ・井戸の湧水もあり、課題は認識している。対策がないのが正直なところで係員の配備も検討している。

9. 上沼垂信号場の通勤者用駐車場に融雪装置等の除雪設備を整備すること。

- ・通勤者用の駐車スペースはない。業務用のスペースは社員の手作業で行う。

10. 架線切断が多発した原因、及び対策を明らかにすること。

- ・パンタグラフが雪により架線から離れたことで電流が流れアークが発生し、架線切断に至ったと推測。
- ・根本的にはPanは今の形状のまま、Pan圧も変えられない。雪払いしかない。対策が難しい。

11. MR除雪を直轄で行う場合は教育訓練を受けた社員が行うこと。

- ・必要な教育・訓練等は実施している。資格があって作業、機械操縦となる。
- ・資格上できないものではないが、教育・作業前に不安があり申告されれば対応する。